

第 10 期武蔵野市環境市民会議（第 1 回） 会議要録

日時 平成 29 年 12 月 14 日（木） 18 時 30 分開会  
 場所 武蔵野市役所 812 会議室  
 出席者 委員 12 名、事務局（環境政策課） 3 名  
 （委員：大江委員長、鈴木副委員長、朝日委員、新井委員、千葉委員、中山委員、白田委員、花俣委員、幕田委員、松岡委員、山村委員、郡委員）  
 内容 ①委嘱状交付  
 ②市長挨拶  
 ③委員自己紹介  
 ④委員長、副委員長の互選  
 ⑤武蔵野市の環境行政について  
 ⑥第 10 期環境市民会議のスケジュール及び検討事項  
 ⑦意見交換

①委嘱状交付、②市長挨拶、③委員自己紹介、④委員長・副委員長の互選

発言者	要旨
	※市長より各委員への委嘱状交付。
市長	<p>環境市民会議の委員は 2 年間の任期となる。皆さんの知見、経験から活発に発言を行っていただき、この市民会議が実りの多い会議になるよう願っている。</p> <p>武蔵野市では、第四期環境基本計画の計画期間中であり、「スマートシティむさしの」を目指すべき環境像としている。3 年後に近づいてきた東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けても、環境に対する市民意識が非常に高まってきていると感じている。また、第 9 期環境市民会議（以下「第 9 期」という。）で深く議論できなかった、環境情報の発信、エネルギーの地産地消等の検討も、この第 10 期環境市民会議（以下「第 10 期」という。）で予定されている。</p> <p>ぜひ委員の皆さんのそれぞれの立場から、活発なご意見を頂戴し、市の環境政策の発展、推進にご貢献いただきたい。</p>
	※各委員より自己紹介の後、委員長、副委員長の互選を行い、委員長に大江委員、副委員長に鈴木委員が選出された。
委員長	<p>第 9 期に引き続き委員長となった。これから第 10 期では、第四期環境基本計画の計画期間の後半部分に関わっていく。また、第 9 期ではエネルギーに関する議論のほか生物多様性に関する基本方針を検討し、策定へとつながった。これは第 9 期の一つの成果である。しかしエネルギーに関する議論は不十分だったので、この点に第 10 期では取り組んでいきたい。</p> <p>第 10 期では、第 9 期で委員に対して実施した、市民会議のあり方に関するアンケートの結果が取り入れられている。</p> <p>まず委員の人数について、第 9 期は委員が 19 名だったが、アンケートでは最適数は 10 名から 15 名との回答が多数あった。第 10 期では委員数を 15 名にしている。さ</p>

	<p>らに第9期では、企業、二俣尾・武蔵野市民の森の自然体験館、市内の見学などを行った。座学だけではない体験、見学の学習が非常に役に立ったという意見が多かったため、第10期でも引き継いでいきたい。また、若い世代の委員も入れたらよとの意見もあった。大学生の委員は第9期にはいなかったのので、違った視点から意見をいただけたと考えている。</p> <p>第10期にあたっては、以上のような点も踏まえて委員長を務めていきたい。</p> <p>さらに、市民目線を大事にしたい。私の専門が環境マーケティング、環境ビジネス論であり、市民との関わりが大事な要素に入っている。環境市民会議も、市民から見た環境への目線を大事にしたい。この姿勢は第9期に引き続き継続していきたい。</p> <p>環境部は大きな部である。環境部の中に緑、下水、ごみ、さまざまな部署があり、幅の広い問題を扱っている。環境市民会議には、これら個々の問題をやや抽象的にまとめていく部分がある。そのためには、コンパクトな会議体として、議論を交わしやすくしていきたい。</p> <p>市民、専門家の意見も聴き、委員の皆さんのご協力、ご理解をいただきながら、第10期も活発な実りある会議体にしていきたい。</p>
--	--

⑤武蔵野市の環境行政について

発言者	要旨
委員	※郡委員より、武蔵野市の環境行政について説明（資料2）。

⑥第10期環境市民会議のスケジュール及び検討事項

発言者	要旨
事務局	※事務局より、第10期のスケジュール及び検討事項（資料3）、第四期環境基本計画について（資料4）、武蔵野市環境基本条例及び同施行規則（資料5）を説明。

⑦意見交換

発言者	要旨
委員長	説明に対する質問も含めて意見をもらいたい。
委員	<p>下水管について聞きたい。戦後急激にライフラインを整備したことも影響しているのか、東京都全体で配管が老朽化してきている。配管の老朽化に伴い、漏水から道路の陥没などにつながる恐れがある。</p> <p>武蔵野市もライフラインが老朽化していると思う。今後の下水管の取り替えに600億円もかかると聞いた。徐々に配管の取り換えを実施しているようだが、その状況を聞きたい。</p>
委員	<p>吉祥寺あたりで下水道網ができたのは昭和45年頃で、もう40数年経っている。吉祥寺を通っている下水管は、幅4m×高さ2.5mぐらいの四角形のコンクリートであり、劣化してきている。</p> <p>現在、内側から補強材を巻いて、それを元々の管と一体化させて強くする、という工事を行っている。武蔵野市では、女子大通りという都道に4m×2.5mの下水管があ</p>

	<p>り、6年間かけて全部内側から補修している。補修をすれば耐用年数は50年ぐらいになるが、来年度で全部終わる。その後は同様の方法で、市内の直径2m程度の下水管を全部補修していく。</p> <p>道路には上下水道、ガス管、電線、電話線などがたくさん入っており、改めて下水管を入れる余地はないので、現在の下水管を使用できるように補修していく考えである。</p>
委員	<p>10月に続けて雨が降った時、井の頭公園のいたるところで、湧水がたくさん出ていた。なぜ降雨によって湧水が出て、雨が止むと出なくなるのか、不思議に思ったことがあった。</p>
委員	<p>それは地下水位と井の頭公園の底の高さに関係している。昔は、地下水位が井の頭公園の底より高かったため、湧水があったが、昭和30年代頃から急激に地下水位が落ちて、現在は井の頭公園の底の高さと同程度である。そのため、雨が降った時だけ地下水位が上がるため、急に思いがけないところから水が湧くことがある。</p>
委員	<p>昭和44年は、吉祥寺の都市開発が始まってきたときにあたる。ビルが吉祥寺に建ちはじめて、昭和55年頃がピークだった。吉祥寺周辺のビルができた頃が、公園の水脈、湧水が変わってしまった頃である。</p>
委員	<p>水の学校で吉祥寺北町の雨水貯留槽を見学した。近くの保育園や、遊園地のブランコの下に雨水貯留槽がある。市内小学校の校庭の地下にも大きな貯留槽がある。下水管の補修も浸水対策のひとつだが、武蔵野市では雨水の貯留にもかなりお金をかけている。</p>
委員	<p>北町保育園の園庭に4500tの雨水貯留槽があり、学校のプール約20杯分の雨水を貯留できる。また、各小中学校の校庭には500~600tぐらいの貯留槽を入れている。昔からある下水道管だけでは雨水を処理しきれないので、貯留槽をつくっている。</p>
委員	<p>ごみ焼却の際、不燃ごみは燃えやすいので最初に投入して、可燃ごみを後から入れるという話を聞いたことがある。武蔵野市でもそのような処理方法を行っているのか。</p>
委員	<p>不燃ごみは文字どおり燃やさない。武蔵野市では不燃ごみを少しでも燃やすものと金属に分けるために、全部破砕している。アルミ、鉄、あとは燃えるごみに分別して、燃えるものは燃やすが、金属は金属として再利用している。その他にびん、缶、ペットボトルもすべてリサイクルに回している。</p> <p>少しでもリサイクルに回すものを増やして、燃やすものを減らすのが大変な作業である。年間3万tぐらい燃やしているが、その4割は食べ物の余りである。家庭から出るごみのだいたい4割は生ごみとさせていただいてよい。</p>
委員	<p>以前住んでいた地域では、大雨の時には風呂の水を流さないようにと言われたことがある。トイレの水がそのまま川に流れているという話を聞いて、信じられない思いをしたが、武蔵野市ではどうなっているか。また、緑被率には、屋上緑化なども含まれているのか。</p>
委員	<p>汚水が川に流れてしまうのは、「合流式」と「分流式」という下水道の仕組みが関係している。武蔵野市に限らず、都の9割ぐらいは合流式で、雨水と汚水を同じ管に</p>

	<p>流す。一方分流式は、雨水と汚水の管を分けているので、雨水が汚水と一緒にならず、雨水は直接川に流している。</p> <p>問題は合流式だが、雨水も汚水も一本の管で流しており、雨が大量に降って全部終末処理場に流れると、簡単に処理能力の限界を超えてしまう。このため、一定以上の雨が降った場合は、上流の浸水対策として川に流している。そのため、処理されていない水が、最後は東京湾に出て行ってしまうことがある。</p> <p>東京の大部分が、早い時期に合流式で整備されてしまったのは、東京が抱えている大きな問題である。</p> <p>緑被率には、屋上緑化なども入る。生きている緑は緑被地に算入する。</p>
委員	<p>都市部で環境問題に対処しようとする、かなりのお金がかかる。それは反対に言うと、武蔵野市のように、財政的にきちんと歳入があるところだからできるのだろう、という気がした。下水が溢れるという話も、各家庭への雨水対策設備の導入を促す取り組みもされていることから、市は市として大きなものに手をつけてもらいながら、どうやって市民が自分たちの身の回りのことは自立してやっていくか、ということがとても大事なのだと思う。</p>